

ごあいさつ

本田技研工業株式会社 専務取締役
安全運転普及本部 本部長

小内弘平



日頃から Honda の安全運転普及活動に多大なるご理解、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。今年も様々な活動を国内外で展開することができました。これも皆様のお陰によるものと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

今、自動車産業は百年に一度とも言われる大きな波の始まりに直面しています。パワートレインの変革である電動化と自動運転も含めたクルマの知能化を実現しようとする2つの波です。この大きな変化は自動車産業のみならず社会経済に与えるインパクトも非常に大きなものになると予測しています。

このような中であってなお、Honda は「社会から存在を期待される企業」であるための指針として「2030年ビジョン」を今年策定しました。そのビジョンステートメントは、「『移動の進化』と「暮らしの価値創造」という二つの領域で、すべての人に「生活の可能性が広がる喜び」を提供する」というものです。

人々の夢と可能性を広げるような価値を提供すること、そして熱き想いで新しいことにチャレンジすること、これが Honda の普遍的な想いです。このステートメントを実現するために具体的に取り組む方向性を、「喜びの創造」「喜びの拡大」「喜びを次世代へ」の3点に決めました。「喜びの創造」とは、「移動」と「暮らし」の価値創造であり、「喜びの拡大」とは「多様な社会・個人への対応」です。そして、「喜びを次世代へ」とは、クリーンで安心・安全な社会を目指し、CO2排出ゼロと「交通事故ゼロ社会の実現」をリードしていくことです。

「交通事故ゼロ社会の実現」に当たっては、従来より掲げています「Safety for Everyone」というグローバル安全スローガンに基づき、安全技術、安全情報、安全教育の3つの領域を進化、相互に連携させることに一層注力して参ります。

安全技術については、完全自動運転可能なクルマの将来実用化を目指し、その過程で搭載される先進の安全運転支援システムによる交通事故抑止・被害軽減に対する期待は非常に高いものがあります。Honda も日本においては、この夏発売した軽自動車 N-BOX 以降のモデルについて「Honda SENSING」を標準化し、早く広く普及を図っています。

一方、世界的視野で見ると年間120万人を超える方々が交通事故

で亡くなっており、特に新興国を中心に深刻な状況です。日本においても減少はしているものの、昨年約4千人近い人が交通事故で亡くなっています。四輪車の安全技術の普及拡大に加え、二輪車の安全な乗り方についての教育や子どもの交通安全教育といった、人に焦点を当てた活動も時代や地域に応じて進化、現地化させることが依然として必要です。

安全運転普及本部は本年組織を改編し、今後の活動方針に適應できる体制にしました。5地区の普及活動拠点を青山の本部に集約し、地域の交通指導員、関係団体や他部門との連携を保ちつつ現場のニーズに基づいた使い易く、効果的な教育プログラムを本部一体となって開発・普及して参ります。

いくつか事例をご紹介しますと、子ども向けの教育では、昨年の幼児向けの教育プログラムに続き、今年は小学1～2年生向けのプログラムを完成させ、普及を開始しました。これにより、幼児から中高生までの体系的なプログラムが揃いました。

また、日本での「Honda SENSING」の普及拡大に伴い、ユーザーの機能に対する誤解や過信を取り除き、正しい理解のもと使っていただくよう、営業部門と連携して販売会社スタッフの説明知識充実や試乗体験の運営方法等を再度徹底するための研修会開催に着手しました。今後、本格的に研修会を展開する予定です。

海外では、アジアを中心に Honda の海外事業所が中核となって販売店と共に運転者教育、子ども教育など様々な活動を積極的に展開しています。今年3月には Honda としてベトナムに新しい交通安全教育センターがオープンし、より幅広く地域社会の交通安全に貢献できる体制ができました。今後もノウハウ提供や人材育成など現地ニーズに応じた支援を継続します。

Honda は「交通事故ゼロ社会の実現」を目指し、これまで以上に行政、関係団体、地域社会など多くの皆様と連携を深めながら、交通安全に取り組んで参ります。

最後に、皆様の益々のご健勝とご発展をお祈りするとともに、Honda への変わらぬご理解、ご支援をよろしくお願い申し上げます。